

28aWH-10 オーラルヒストリーによる核融合 研究初期における産業界の役割に 関する調査

核融合研, 名大^A 藤田順治, 寺嶋由之介^A, 大林治夫,
松岡啓介, 難波忠清, 木村一枝

An Oral History on the Involvement of Industries with
Nuclear Fusion Research and Development in Japan

NIFS, Nagoya Univ.^A Fujita, J., Terashima, Y.^A, Obayashi, H.,
Matsuoka, K., Namba, C., Kimura, K.

1. 核融合アーカイブ室の設立

2005年1月1日、核融合科学研究所に「核融合アーカイブ室」が所の正式な組織として設立され、総合研究大学院大学の「共同利用研の歴史とアーカイブズ」プロジェクトとの密接な連携のもとに、史料の収集整理、データベース化、年表の編纂、公開のための準備、オーラルヒストリー等による核融合研究に関するアーカイブズの充実が図られている。

2. オーラルヒストリーによる調査

上記の活動を進める上で、核融合開発研究初期における企業と研究機関との関わりについて調査しておくことは重要な課題である。そこで、核融合装置の建設に従事され、日本原子力産業会議で活動して来られた企業関係者を対象にインタビューを行い、1) 我が国の産業界が核融合研究開発に参画し始めた経緯、2) 日本原子力産業会議の果たしてきた役割、3) 諸外国と比較したとき、我が国の企業と核融合研究機関との関わり方の特徴、4) 関連する史料の有無、その他についてお聞きした。

3. 調査結果

企業と研究機関との我が国独自の協力関係のもとに研究開発が進められてきた経緯が明らかとなった。すなわち、初期において、核融合研究に強い使命感を持ったパイオニア的な方が企業におられて推進役を果たしたこと、企業は次世代エネルギー源として注目されている核融合に関わることに誇りを感じていたこと、アフターサービスを行なうことにより、企業にとって良い勉強になると受け止められたことなどによって、欧米とは異なった取り組みがなされたことなどである。

4. 問題点と今後の計画

欧米におけるオーラルヒストリーの手法と、我々のインタビューとの違いを検討し、目的に沿った最適な手法を確立して調査活動を続ける。